

## 令和元年度 姉妹校等留学プログラム

### ●学校・団体名/研修名（派遣高校生数）

横浜市立みなと総合高等学校/カナダ国際交流プログラム（2名）

### ●渡航先

国/都市：カナダ/バンクーバー市

外国の高校： 高校

### ●渡航期間

2020年2月15日～2020年2月21日

### M・Yさん

私は今回、視野を広げたいという思いでこのプログラムに参加しました。そのため、日本とカナダの相違点や共通点を見つけることを意識して過ごしました。するとそこには、想像していた以上に自分の知らなかったことや文化の違いがありました。

特に姉妹校での体験では日本との違いを感じる事が多く、強く印象に残っています。カナダには移民が多いというイメージを持っていたのですが、実際に学校に行ってみると、本当に様々な人種の人々がいて、特にアジア系が多い印象でした。私と一緒に行動してくれた姉妹校のバディも中国人でした。しかし、自分はカナダで生まれてカナダで育ったため移民ではなく、両親が移民だと教えてくれました。そこで私は、自分と同じ世代は移民の子供が多いことを知りました。日本では外国人と日本人をはっきり区別する人が多いと思いますが、カナダはそもそも「外国人」という概念がないのではないかと思います。見た目の違いも受け入れている印象を受けました。それと同時に、どれだけ日本が差別社会であるのかを感じました。二日間の授業体験の中で、偶然にも全校集会に参加する機会がありました。その時の集会の内容は、黒人の方から黒人の歴史についてのお話を聞くというものでした。カナダでは2月がBlack History Monthといって黒人の歴史の月で、学校では毎年2月に黒人の歴史についてのお話を聞く機会があるそうです。なぜ2月なのかというと、黒人の歴史に深く関わる二人の重要人物の誕生日が2月だからだそうです。様々な人種の人々が共存しているカナダでは、人種の違いをあまり気にしないのかなと思っていたので、最初はこういったものがあることも不思議に思っていました。しかし、黒人の方のお話を聞いていくうちにその考えが変わっていきました。人種の違いを気にしていないのではなく、それぞれの人種を尊敬し合う気持ちが強いからこそ、様々な人種の人々が共存できているのではないかなと思いました。

授業の雰囲気も日本との違いを感じました。多くの生徒が先生の話に関心を持って耳を傾け、発言する人も多かった印象を受けました。全校集会の時にも発言をする機会がたくさんあり、とても新鮮に感じました。先生と生徒の距離も近く、授業は先生

が一方向的に話をするというよりも、先生と生徒が会話をしているという感じがしました。姉妹校の生徒に日本では先生にあいさつするときにお辞儀をすると言ったら、とても驚かれました。

このようにバディとの会話を通して、たくさんの文化の違いを知ることができました。教育制度に関しては、小学校が8年間、中学と高校が組み合わさった学校が5年間あると教えてくれました。また、学校が終わるのは3月ではなく9月で、卒業は6月だそうです。時間割は1日4コマあり、1コマ70分くらいでした。一番衝撃的だったのは、生徒が学校の掃除をしないことです。これは学校の掃除をするという仕事があるからだそうです。また、定期テストのような大きなテストがないことにも驚きました。カナダの良いと思うところはどこかと聞くと、自然がたくさんあって空気がきれいなところと答えてくれました。私からも横浜について、野球チームがあることや中華街やみなとみらいなどの観光地があることを紹介しました。

ホームステイ体験は、外国での生活を知ることができた貴重な経験になりました。家庭によって異なると思いますが、私がお世話になったホストファミリーのお家では靴を脱ぎましたが、靴で入っている部分とそうでない部分の境界線が曖昧でした。また、カナダでは共働きの家庭が多いため、どの家庭もだいたい車は2台持っているそうです。私は今回が人生初のホームステイ体験だったので、とても緊張していました。しかしホストファミリーがとても親切にしてくださったおかげで、不便なく生活することができました。

市内研修で一番印象に残っているのは、都市と自然が近いということです。高層ビルが立ち並ぶダウンタウンからも山が見えました。また、野生のクマがよく出るところのごみ箱は人間しか開けられないような工夫がしてありました。それは、クマがごみ箱をあさっているところを人が見つけてしまうと殺さなくてはならないので、そうならないための工夫だそうです。これを知った時、カナダ人の自然や動物にする優しい心を感じました。

コミュニケーションに関しては、バディが分かりやすいように話してくれたり、現地のコーディネーターの方があらかじめ文化の違いや大事なことをたくさん教えてくださったおかげで、あまり不安を感じず、どんどん会話することができました。カナダで過ごしたすべての時間が私にとっての一生の宝物です。私がこのような貴重な経験ができたのは、支援してくださった横浜市の方々、先生方、そして家族の支えがあってこそのことだと思います。心から感謝しています。本当にありがとうございました。

今回のプログラムを通して、文化の違いや新たな発見といった、視野を広げてくれるたくさんの刺激に出会うことができました。今までは同じ文化の中での視野を広げてきましたが、今回は違う文化に触れたことでグローバルな視野も少し身についたのではないかと思います。これをもとに、もっと異文化理解についての学びを深め、変化が著しい現代の社会で柔軟な対応ができるように広い視野を持つ人間に近づいていきたいと思います。また、英語でコミュニケーションをとるときに感じたもどかし

さを忘れずに、より一層英語学習に励んでいきたいと思っています。カナダで見たこと、聞いたこと、感じたことを全て大切に、これからも一生懸命生きていきたいと思います。

## N・Hさん

私は「カナダ国際交流プログラム」に参加することにあたって目標を立てました。それは、「ホストファミリーや現地の高校生と積極的にコミュニケーションを取り、英語を使うことに慣れる。」ということです。その目標を達成するために、1日5～10個の質問をすると決めました。そしてその目標を達成することができました。

1日目は少し緊張してしまい自分から積極的に質問をするということが出来ませんでした。しかし2日目からは少しずつ緊張も解けていき、話せる回数が増えていきました。3日目からは現地の高校生と一緒に過ごしていたため、話す回数も一段と増えていきました。しかし彼らは話すスピードが速く、ついていけない時が何回かありましたが話していくうちに慣れていき、スムーズに話していけるようになりました。彼らと話していくうちにわかったことがいくつかあります。1つ目は、話している相手にしっかりと自分の意見を伝えることです。何をしたい、ここに行きたい、こうだと思ふなどということ自分の口から伝えないとうまく伝わりません。日本だと自分のため意見をあまり主張しない人もいます。ただ自分の意見を言うと、自己中心的だと思われることも少なくありません。私はそうは思っていないとずっと思っていたのですが、カナダに行って実は自分もそのように思っていた部分があったのではないかと気づきました。カナダに行って、相手に流されずしっかりと自分の意見を伝え、相手の意見を尊重するということが大切だということに気づかされました。2つ目は、英語でうまく伝えられないことがあったとしても、伝えようとする気持ちが大事だということです。うまく言えないからと諦めるのではなく、単語だけでもいいから何かを言うことが大切です。今はスマートフォンなどという便利な機械が発達しているけれど、それに頼りすぎず、自分の口で伝えることが大切だということがわかりました。

このプログラムでは目標以外のことも多く学び、たくさんの違いに気づくことが出来ました。その中で一番感動したのは、カナダ人はとても親切だということです。よく日本人は優しいというようなことを言われますが、私にはカナダ人のほうが優しいのではないかと感じました。ただ日本人が親切ではないとは思いません。しかし、カナダ人は自分の周りの人たちだけではなく、他人にも優しく接しています。それは日本人より社交的なカナダ人の特徴だと思います。日本人にはその勇気がないから行動が出来ないのかなと思いました。このように思った理由は買い物をしていて感じました。お店に入ったら定員さんは話しかけてくれます。それは日本より多く、積極的に話しているように感じました。

2つ目の違いは、自然が近くにあるということです。ビルなどが立ち並ぶようなところもあれば自然が多く広がる場所もありました。だから都市部よりそのようなところに遊びに行くことが多い時もあると話していました。私たちの周りにあまりそのよ

うな場所はないと話すと少し驚かれました。そこで横浜について説明しました。私たちの周り横浜の有名な場所や写真をみせたりしました。そうするとその話にとっても興味を持ってくれて、最後には「行ってみたいと思った」と言ってくれてとてもうれしい気持ちになりました。

3つ目は学校です。日本の学校とは違い、様々な人種の学生がいました。これは移民の国ならではのことだと思いました。学校を歩いているとたくさんの人たちが声をかけてくれて、それを実感しました。学校の中で一番驚いたのは、日本と授業スタイルが違うことです。日本よりディスカッションの数が多く、生徒が主体となって授業を進めているなど感じました。そして生徒はとても積極的に楽しそうに参加していました。日本の授業は先生が一方向的に話し、生徒がそれを聞くという授業スタイルが一般的です。だから私達は授業がつまらないと感じがちですが、カナダの授業に参加してつまらないとは感じませんでした。時間も長く、言語も違うのに面白いと感じることができたのは、自分たちで授業を作っていけるからだと思いました。ディスカッションをしているときは、たくさんの意見が出ていました。それはカナダ人の性格などもあるかもしれませんが、子供のころから自分の意見を伝える場が多くあるというのも理由の1つなのではないかと思います。今回、カナダの授業に参加して、生徒が効率よく楽しく勉強できる環境に近いのは日本ではなくカナダのほうなのではないかと感じました。ただ、日本人の性格などを考えるとこのような授業スタイルは難しいのではないかと思います。

このプログラムに参加してたくさんのことを学ぶことが出来ました。目標を達成できただけでなく、考えさせられることも多くありました。そして、貴重な体験をたくさんさせていただきました。この体験は今後の人生に大きくつながり、自信につながるはずです。これからは彼らのように恥ずかしがらずに声を出すことなどを、普段の生活、学校生活の中で活かしていきたいです。日本に来た留学生や観光客に、日本人は優しくて思いやりのある国だと思ってもらえるようになればいいなと思います。グローバル化が進む今、それに臨機応変に対応できるような人に将来なりたいと思いました。そのために今後は英語力だけでなく、コミュニケーション力や観察力などを上げていきたいです。

また、今回支援してくださった方々にはとても感謝しています。その方々のためにも、今回学んだことを活かして様々な国際交流を行い、貢献していこうと思います。